



## 参 加 報 告 書

### ●大会概要

- 大会名 : WACE 18th World Conference  
on Cooperative & Work-Integrated Education
- 主 催 : WACE : World Association for Cooperative Education
- 開 催 校 : Durban University of Technology
- 開催期間 : 2013年6月24日(火)~27日(木) \*6月24日(月)は理事会
- 開催場所 : ダーバン (南アフリカ共和国)  
\*6/24(月)理事会 DUT Hotel School  
\*6/25(火)~27(木) International Conference Center
- 参加者数 : 385名 (19カ国)
- 参加者 : 9名

### ●参加目的

理事会参加、各国コープ協会代表会議参加、コープ教育の先進事例及び国際情勢の調査、コープ教育に取り組む国内・海外大学等機関とのネットワーク構築、WACE2015京都開催に向けた運営視察 等

### ●参加報告 (大会内容)

#### ■ 大会スケジュール (参加行事)

- 6/24 WACE Board of Directors Meeting、WACE Executive Committee  
\* 同時に Pre-Conference workshop & Activities が実施されているが、本参加者は欠席 (全員が理事会へ出席しているため)。
- 6/25 Opening Ceremony : 開会式  
Plenary Session I・II : 基調講演 (パネルディスカッション)  
Luncheon : Global Partner での懇親会兼討議  
Concurrent Session A : ワークショップ、事例 (研究) 報告等  
Roundtable Discussions、 : いくつかのテーマごとに分かれての討議  
Mayor's Function & Civic Reception : 市役所ホールでの懇親会
- 6/26 Plenary Session III : 基調講演 (パネルディスカッション)  
Concurrent Session B・C : ワークショップ、事例 (研究) 報告等  
Luncheon (Buffet) : 昼食

	* Meeting with Paul	: 2015年WACE京都開催に向けたか会議
	Cultural Extravaganza	: 催し (ズール族のダンス)
6/27	Plenary SessionIV	: 基調講演 (パネルディスカッション)
	Concurrent Session D・E	: ワークショップ、事例 (研究) 報告等
	Luncheon (Buffet)	: 昼食
	Closing Plenary	: 閉会式
	Gala Reception & Awards Banquet	: 晩餐、表彰

## ■ 各行事の概要

### ➤ Opening Ceremony : オープニング・セレモニー

主催機関代表者よりの挨拶。会場は大ホール。10人掛けの円卓が40卓設置されており、テーブルには、水、メモパッド、ボールペン、キャンディがセットされていた。また、200インチ (推定) のスクリーンが2枚設置されており、発表資料者、壇上及び会場の撮影映像が投影されていた。司会者は、DUTの教授が務めており、非常に巧みな英語で、



MCの経験を相当積んでいるように思われた。なお、挨拶の登壇者は以下のとおり。

Dr. Paul Stonely, CEO, WACE

Mr. William Howard, WACE Co-Chair, Executive Vice President, CDM Smith

Prof. Ahmed Bawa, Vice-Chancellor and Principal, DUT

Dr. Blade Nzimande, Minister of Higher Education and Training

### ➤ Plenary Session I ~ IV : プレナリーセッション1~4

大会の毎日午前中に実施される基調講演及びパネルディスカッション。主にスポンサー大学やグローバル・パートナーの大学からの事例報告で構成されていた。参加者は、毎朝のこのプレナリーセッションにまず参加することとなる。会場は、オープニング・セレモニーの会場。

### ➤ Luncheon : ランチョン

昼食の懇親会。立食形式。初日のみ、一般参加者のランチとは別に、グローバル・パートナーのみでのランチョンが開催された。参加者は全員、グローバル・パートナーのランチョンに参加。このランチョンでは、WACEが推進するGlobal Students Exchange Programの紹介と今後の展開等に関する意見交換が、昼食をとりながら行われた。



一般参加者の Lunchon 会場は、オープニング・セレモニーに隣接するほぼ同じ大きさのホール。懇親会場としてのみではなく、WACE や各参加大学、スポンサー企業の P R 用ブースが壁に沿って設置されており、ポスターセッション（ブース版）のような会場となっていた。各種セッションの合間には、コーヒーや軽食が用意され、参加者は次に参加するセッションまで休憩を取りながら、出展されているブースを訪れることができた。本学は、NPO 法人 WIL に提供されたブースを借用し、2015 年の World Conference 京都開催を PR した。



#### ➤ Concurrent Session A～E

ワークショップ及び事例報告。事例報告は、査読付きの論文と査読なしの論文の発表があり、報告のみの会場もあれば、討議をベースとする会場もあった。本大会では、最大で6会場で同時進行されていた。各自が興味を持つセッションへ参加。

会場は、小会議室でいずれも 48 名(8 名掛けの円卓が6卓設置)が定員。すべての会場にプレゼンテーション設備、音響設備が用意されていた。

資料やアンケートを配布するサポートスタッフ（学生）が1名ずつ配置。プレゼンテーション設備、音響設備は、事前に（おそらく会場の）スタッフが調整しており、セッションが開始する頃には、スタッフは学生スタッフのみであった。



➤ **Roundtable Discussions**

Ushaka Marin World（プールや海を中心としたアミューズメントパーク）にて開催されたワークショップ・セッション。

10 テーマの中から、それぞれが興味のあるセッションに参加した。敷地内の 10 か所にビニールテントが張られており、セッションはその中で行われた。各セッションの定員は 32 名。各テントにはコーディネータ（ファシリテータ？）1 名が配置され、セッションを進行。この他に大学スタッフ 1 名、学生アシスタント数名が配置されており、タイムマネジメント等、運営サポートを担当していた。

➤ **Mayor's Function & Civic Reception** : 市役所ホールでの懇親会

懇親会。Durban の行政関係者からの挨拶とライブ演奏、ダンス等が披露された。食事は立食のビュッフェ形式。

➤ **Cultural Extravaganza**

開催国の文化披露。本大会では、ズール族の伝統舞踊が披露された。

➤ **Closing Plenary**

閉会式。会場は、オープニング・セレモニーの会場。登壇者は以下のとおり。

Dr. Ahmed Abdelal, Provost, University of Massachusetts Lowell

➤ **Gala Reception & Awards Banquet**

晚餐と表彰式。表彰式がなされた後、晚餐となった。正餐形式のコース料理で、500 名（10 名掛けの円卓が 50 卓設置）分が用意されており、家族同伴の参加者も多数いる様子であった。座席の約 8 割は出席したと見受けられる。司会は、オープニング・セレモニーと同じ DUT の教授が務めていた。

なお、Awards での挨拶は、WACE の CEO である Dr. Paul Stonely が務めた。



### ■ 2015 WACE 京都開催 PR ブース出展報告

一般参加者の Luncheon 会場に設置された NPO 法人 WILL のブースを借用（※前述）し、2015 年の WACE 京都開催を PR した。持参した資料は、大学ガイド、記念ボールペン、告知リーフレット、京都市の観光 PR グッズ。  
大会期間 3 日間で、のべ約 150 名人がブースを訪れた。



以上